

試験報告書

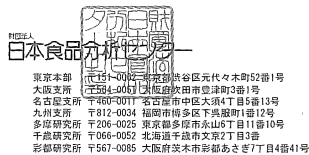
第 508070119-003 号
2008年(平成20年)08月19日

依頼者 清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)

検体 ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

表題 ウサギを用いた眼刺激性試験

2008年(平成20年)07月04日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。



※報告書に他に添付するときは当センターの承認を受けて下さい。

ウサギを用いた眼刺激性試験

要約

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppmを検体として、OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 405(2002)に準拠し、ウサギを用いた眼刺激性試験を行った。
ウサギ3匹の片眼に検体を0.1 mL点眼した結果、点眼後1, 24, 48及び72時間の各観察時間において刺激反応は見られなかった。
Draize法に従って算出した観察期間中の平均合計評点の最高値は0であった。
以上の結果から、ウサギを用いた眼刺激性試験において、検体は「無刺激物」の範疇にあるものと評価された。

依頼者

清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)

検体

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

試験実施期間

平成20年07月07日～平成20年08月19日

試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
東京都多摩市永山6丁目11番10号

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 多摩研究所
安全性試験部 安全性試験課
川本 康晴

試験実施者

永井 武, 小澤 美来, 鈴木 美そら

本資料は、私(他3名)が実施した試験に基づいて作成されたものに相違ありません。

平成20年08月19日

川本康晴

財団法人 日本食品分析センター

第 508070119-003 号 page 2/7

1 試験目的

検体について、OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 405(2002)に準拠し、ウサギにおける眼刺激性を調べる。

2 検体

ハイパワー酸化水(ジアムバー)200ppm

性状：無色透明液体

なお、2008年07月04日に到着した検体を試験に用いた。

3 試験動物

日本白色種雄ウサギを北山ラベス株式会社から購入し、1週間以上の予備飼育を行って一般状態に異常のないことを確認した後、3匹を試験に使用した。試験動物はPPP製ケージに個別に収容し、室温22℃±2℃、照明時間12時間/日に設定した飼育室において飼育した。飼料はウサギ・モルモット用固型飼料[LRC4、オリエンタル酵母工業株式会社]を制限給与し、飲料水は水道水を自由摂取させた。

4 試験方法

各試験動物の両眼の前眼部を試験開始当日に検査し、異常のないことを確かめた。

体重測定後、各試験動物の片眼結膜袋内に検体を0.1 mL点眼し、約1秒間上下眼瞼を穏やかに合わせ保持した。他眼は無処置の対照とした。点眼後1, 24, 48及び72時間に、スリットランプ(×10) [興和株式会社]を用いて角膜、虹彩、結膜などの観察を行い、表-1に示したDraize法の基準に従って眼刺激性の程度を採点した。

なお、点眼後1時間を除く各観察時間にフルオレセインナトリウムを用いて、角膜上皮障害の有無と程度を詳細に観察した。

得られた採点値を用いて各試験動物の合計評点を表-2に示した式から計算し、観察時間ごとに3匹の平均合計評点を求めた。観察期間中の平均合計評点の最高値から、表-3に示した基準に基づき、検体の眼刺激性について評価を行った。

財団法人 日本食品分析センター

第 508070119-003 号 page 3/7

5 試験結果(表-4～8)

全例の試験眼及び対照眼で、観察期間を通して刺激反応は見られなかった。また、試験眼及び対照眼について、フルオレセインナトリウムによる検査を行ったところ、すべての観察時間においていずれも染色は見られなかった。

観察期間中の平均合計評点の最高値は、試験眼及び対照眼でいずれも0であった。

6 評価

検体について、OECD Guidelines for the Testing of Chemicals 405(2002)に準拠し、ウサギを用いた眼刺激性試験を行った。

ウサギ3匹の片眼に検体を0.1 mL点眼した結果、観察期間を通して刺激反応は見られなかった。

Draize法に従って算出した観察期間中の平均合計評点の最高値は0であった。

以上の結果から、ウサギを用いた眼刺激性試験において、検体は「無刺激物」の範疇にあるものと評価された。

7 参考文献

“Appraisal of the Safety of Chemicals in Foods, Drugs and Cosmetics” (1959)
The Association of Food and Drug Officials of the United States.

財団法人 日本食品分析センター